

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 1月21日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3471502594		
法人名	社会福祉法人サンフェニックス		
事業所名	グループホームサンフェニックス		
所在地 (電話番号)	福山市瀬戸町地頭分字小立2721番地 (電話) 084-949-2585		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町1丁目6-29		
訪問調査日	平成20年1月17日	評価確定日	平成20年1月30日

## 【情報提供票より】(19年12月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤	24 人, 非常勤 人, 常勤換算 21.9

### (2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	3 階建ての	1 階 ~ 3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

### (4) 利用者の概要(12月25日現在)

利用者人数	27 名	男性	4 名	女性	23 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	10 名	要介護4	5 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 82.3 歳	最低	68 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	花園クリニック・大石病院・寺岡整形外科・高橋眼科
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当グループホームでは、開所以来ホーム独自の理念の下で管理者、全職員がユニット毎の目標を策定し、共有、実践を行いながら、常に利用者・家族・地域に安心と信頼がつけられるような関係づくりと支援に取り組んでいる。また、職員は常日頃からグループホームの役割と特徴である「互いに寄り添いながら生きることを支える場」を理解し、利用者の方の思いや意向の把握に努めながら本人本位の支援が行われている。これらのことや、ほっとする馴染みの環境と人間関係が積み上げられた中で、安心と活力のある表情で暮らされている利用者と、明るく気持ちの良い挨拶を交わしている職員が印象的であった。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では、特に改善点はなかったが、現状に甘んじることなく運営推進会議等の場を通じて利用者一人ひとりが地域とつながりながら暮らし続けられるように、事業所が地域で必要とされる活動や役割を積極的に担っていく努力がなされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は、自己評価の意義や目的について積極的に職員と話し合っ共に取り組みながら、質の確保やサービスの向上に活かしている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議では、ホームからの報告等に参加者からの積極的な意見や要望を受け、改善にむけた具体的な取り組みにつなげている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>開所以来、家族等が職員に、意見・不満・苦情等々を伝える機会を数多く設け、個々の利用者の家族の立場に立った確認を行いながら課題を検討し、質の向上をめざす取り組みをしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>常日頃から、利用者が地域で暮らし続けるための基盤づくりに取り組んでいる。例えば、地域の行事に積極的に参加をし、また母体事業所で開催される夏祭りに多くの地域の方が来訪する機会を設けたり、事業所の力を活かして開催される地域の研修に職員が関わりを持つなど交流が図られている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を考えながら事業所としての理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の中で管理者、職員が理念について共に意識しながら話し合いや確認を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事等には利用者とともに積極的に参加したり、また地域で必要とされる活動や役割を担っていく努力がなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、評価を形式的な作業に終わらせず、評価の意義や目的及び活用方法を詳細に全職員に伝え、全員で取り組みサービスの質の確保に活かしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、地域の理解と支援を得るための貴重な機会とし、参加メンバーから多くの卒直的な意見をいただき、改善に向けた具体的な取り組みにつなげている。		運営推進会議は、地域の幅広い立場の人が参加する機会とするために、地域の資源の見直しや掘り起こしを今以上に行われることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	母体の事業所を通じて、事業所の実情やケアサービスの取り組みなどを折りに触れて伝えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、スタッフより手紙にて現在の報告をし、また訪問時には詳細にあらゆる接点で情報提供を積極的に行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会等で常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。また、出された意見等は、その発生要因を探り、課題を検討し、質の向上につなげている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常日頃から各ユニット、併設事業所との交流を通じて馴染みの環境・人間関係をつくり、またやむを得ず職員が代わる時は、引き継ぎの期間を十分に取り、スムーズに移行できるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常日頃から学ぶことを推進し、職員が働きながら技術や知識を身につけていくための方策と工夫がなされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの管理者交流等をもつことにより、サービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>地域密着型サービスの特徴を活かして、利用開始前にホームの見学や遊びにきてもらうことを繰り返しながらホームでの生活が安定するのを見極めて安定的な利用に移行している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者と職員は、一緒に過ごし喜怒哀楽を共にする関係づくりを行いながら、支え、支えられることを日常の中でつづけている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>常日頃から、利用者一人ひとりの思い・希望・意向の把握に努めながら、本人の視点に立って支援を行っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員の視点からみた画一的な介護計画ではなく、利用者主体の暮らしを反映した介護計画となっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>新たな要望や変化が見られない場合でも、常に新鮮な目で本人や家族の今の状況を確認すると共に、ケア関係者の最新の情報や気づき等を集めて、実情に即した介護計画の見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	医療連携体制を活かして利用者にとって負担となる受 診や入院の回避、早期退院等の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得ら れたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、 適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医や医療機関に よる受診の支援を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	本人や家族の意向、本人にとってどうあったら良いの か、事業所が対応しうる最大の支援方法を踏まえて、 方針をチームで話し合っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	ミーティングの折に、プライバシーの確保や個人情報の 取り扱いについて確認をしながら、意識向上を図って いる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の都合や決まりごとに利用者进行合わせるのでは なく、職員が利用者に合わせていく姿勢や実践を保ち ながら、支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の盛り付けや片付け等、利用者がそのことをやってみてみたいという前向きな意志や気持ちを引き出しながら大切に進めている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入居前の習慣や、希望にあわせて柔軟に支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	常日頃から、利用者一人ひとりの活力を引き出すための楽しみごとや役割を見つけながら支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、利用者の気分や希望に応じて、近くへの散歩だけではなく地域の行事や買い物などに出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者一人ひとりの外出のくせや傾向をつかみながら、見守りや連携プレーで対応している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回利用者とともに避難を行っている。また、消火器や避難路の確保等の設備点検も定期的に行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。また、母体の事業所の管理栄養士の専門的なアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、五感刺激への配慮がなされており、設えは職員の感覚や好み、価値観で決めてしまわずに利用者一人ひとりの感覚や価値観を大切に、居心地のよい場となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、使い慣れた馴染みの物が傍に置かれ、居心地よく、プライバシーを大切に安心して過ごすための環境となっている。		

# 介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームサンフェニックス すいせん

評価年月日 19 年 12 月 20 日

記入年月日 19 年 12 月 25 日

記入者 職 計画作成者 氏名 佐藤美穂



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">理念の基づく運営</div>				
1 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	法人の理念からホームの目標をたてユニットで目標を具体化し、日々の業務に生かせるように取り組んでいる。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	朝の申し送りを活用し、職員一人一人に再認識できるようにしている。		法人の朝礼で、ホームの理念から自分の取組みたい事を定期的に発表している。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	運営推進会議、家族会、入所時等に理解を促している。		地域行事、イベント等の参加時に触れ合う事で理解をしていただけるように取り組んでいきたい。
2 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩や地域のサロン、乳児院の子供たちの遊び場の提供で、継続的なつきあいができるように努めている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	老人会の花見、運動会、もちつき、町内会の草取り等の参加で、地域との交流ができるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の方にアンケートをとり、認知症の勉強会や介護についての悩み等の相談を受け付けている。		継続的にできる支援内容を年間の通して実施できるように計画していきたい。
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価に取り組む事で、ケアへの再認識ができて改善へと取り組む姿勢が職員にでてくる。		定期的な内部研修で認知症への理解を促し、日々のケアに活かせるような体制作りに取り組んでいる。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議での意見は出席した職員からユニットに申し送りをし、今後の取り組みを施設長、管理者、リーダーで話し合い実施できるように取り組んでいる。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	現在は取り組んでいない。		地域の認知症高齢者の状況や近隣地域での高齢者等の活動状況等を把握し、サービスの取り入れが可能な事には取り組んでいけるようにしていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	個々との必要性については家族からの相談や依頼で状況に応じた支援をしている。		内部、外部での研修等の参加で、職員一人一人が理解できるよう取り組んでいきます。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束委員会を設置し、身体拘束、高齢者虐待の研修を実施し、防止に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約は利用者、家族の話を十分に聞き取り、今後の相談や解決に取り組んでいる。 解約時は、状況の変化等があり、分からない事はいつでも相談してもらうように伝えている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	定期的な聞き取り、日々の言動等で不満や苦情を言われたら、すぐに対応するようにしている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	月に一回の月間報告で、生活状況等は知らせている。職員の異動は面会や家族会等での報告をしている。		職員の異動も月間報告で知らせるように実施していく。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議の家族代表者は意見をだされ、他の利用者家族には、介護計画の説明時に意見を書いて頂くようにしている。意見の内容ですぐに改善、解決できることは取り組んでいる。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な研修の実施で意見交換ができるようにしている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状況に応じ、勤務時間や休憩の見直しをしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮            運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>定期的な個別面談で、職員の悩みや現状についての意見を聞き働きやすい環境を作るように努力している。</p>		
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み            運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>年間を通じての内部研修の実施や外部研修の参加を確保している。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上            運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>他のホームの管理者との意見交換は実施している</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み            運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員の意見を反映させるような取り組みに努めている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み            運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>年に3回の勤務状況の把握で、査定を行い給料や昇給に活かしている。</p>		
<p><b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係            相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>入所の相談、申し込み時には、訪問調査を実施し、利用者、家族から現在の状況や悩みや困っている事の相談にのっている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	訪問調査や来園時に家族の納得がいくまで話をする機会を設け、今後のことを一緒に考えるように努力している。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談の状況で、他のサービス利用の検討や施設等の紹介に努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならなかに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用される入居者の状況で、雰囲気に馴染めるか見学や入所前に遊びに来られるような支援体制は整えている。		利用者の状況により、ショートステイの利用を検討して行きたい。
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	会話の中から昔の話や得意なことを聞いて職員が教えてもらったり、できないを手助けする支援をしている。		日々の役割を持っていただく事で、職員と入居者と協働で生活が送れるように関係作りを作っていきます。
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居者の日々の状況を家族に知らせ、状況に応じて介入していただくようにしている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家族からの利用者との入所前の状況の聞き取りや 家族会や施設行事の参加で一緒に過ごす機会を作るように努力している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>家族や知人に面会に来てもらったり、希望にて馴染みの場所に家族と一緒に出かけたりしている。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>夕食作りや日ごろの家事の手伝いなどで入居者同士が関わりあっているような支援している。孤立しがちな方へは職員が中に入って他の入居者と関わりを持たせるように努めている。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>契約が終了した方でも 入院中の方は面会に行き状況を把握するようにしている。家族からの相談等には応じている。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</div>				
1 一人ひとりの把握				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>職員がゆとりを持って入居者に関わる事が出来ておらず、思いや希望等の把握も不十分である。</p>		<p>ゆとりを持って入居者に関わり、一人ひとりの思いや希望などを聞いてそれに沿った介護をしていきたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>入居者や家族から聞き取りをして、センター方式に記入し、把握できるようにしている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>一人一人、日課表を作成しており、又、ケース記録やサンタ - 方式に、1 日の過ごし方や心身状態を記入して、把握できるように努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	カンファレンスを聞き、職員間で意見やアイデアをだし合いながら介護計画を作成している。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の期間に応じて見直しを行っており、状態の変化には それに応じた介護計画の作成をしている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアの実践、結果、気づきなど、あまり明確に記入されておらず、職員間での情報の共有は不十分である。		記録もれがないように記入し、個別記録にて情報が共有できるようにしていく。
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。			
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域のボランティア活動の方とサロン参加等で本人のできる事への支援の協力をして頂いている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	状況変化等の必要に応じ、居宅のケアマネージャーや他施設との相談員とサービス支援の相談の協力をして頂いている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じて対応していく体制は出来ている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	家族の意向に沿えるような受診体制は整えている。 入居者の状態に応じた受診を、家族に説明をし、了解を得ている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	囑託医の定期的な回診で、状態に応じて相談をし、助言や指示を受けている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	職員配置の準看護師と非常勤の看護師に日常的な健康管理や医療支援をしてもらっている。		正看護師の配置で健康管理の充実を図るように準備している。
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入居者の情報提供や日頃のことを申し送りをしていきます。定期的な面会で状態を把握し、早期退院に向けての相談をしています。		



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	重度化 場合の説明は実施しているが、終末期のあり方等は本人や家族の方針は聞き取れていない。		家族に終末期のあり方については、意見を聞く為の準備をしている段階です。
48	重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化や終末期に向けた足り取り組みについては、今後、検討し準備を整えていく準備段階です。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	情報提供を十分行い、情報交換に努めています。分からない事はすぐに連絡できる用にしています。		
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	入居者の尊重するような言葉かけをしているつもりでも、時々、プライバシーを損ねるような声掛けをしてしまう時がある。		さりげない対応や、入居者の思っている現実をこわさないような声掛けを職員全員が統一できるようにしていく。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	分かる人は、自己決定をしてもらっているも自己決定が難しい方は、職員のペースで進めてしまっている。		自己決定の難しい方も その方の思いなどを引き出せるような声掛け、対応を行っていきたい。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者のペースに合わせるように心がけているが、職員側のペースになりがちである。		入居者の希望に沿ったペースで介護していけるように検討していく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	入居者の好みを大切に、服装や髪型へのアドバイスをしている。理美容については、併設施設内の理容室や本人の行き付けの美容院に家族と一緒にいかれるように支援している。		職員のほとんどが女性のためか、男性入居者への整容介助、特に髭剃り（髭剃りのメンテナンス）を忘れる事が多い為、全職員が実施するように徹底していく。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の入居者の状態、レベルにより、一部の入居者には、食事の準備や片付けをして貰っている。毎食とも職員と食事を一緒にとるので、好み等の把握をするように努めている。		週一回の食事作りについては、現状、職員と伴に食事作りに参加している入居者はごくわずか為、準備の段階において簡単な作業等については、今まででたことがない入居者にも声掛けし、参加人数を増やしていく。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	週一回の買物で個人の好みに応じた物が買えるように支援している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の入居者の排泄状況に応じた援助や介助を実施している。		排泄介助については、定時のトイレ誘導のほかに、本人の訴えが会った時にはもちろんのこと、特定の入居者が徘徊を始めた時にも実施している。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日は問題ないが、時間帯については、職員の勤務時間の都合上、入浴時間の制限はある。只、できる限り、希望や身体状況に合わせた入浴の実施をするようにしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個別に休める空間の確保や状況に応じた休息を援助している。睡眠については、不眠状態の入居者に対し、日中の運動等、生活リズムを作り、不眠を防ぐようにしている。		入居者によっては、その日の体調により、日中、居室で横になりたいと訴えがある人もおられる為、そのような場合には、本人の希望に沿った対応をしている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居者一人ひとりの状態に応じた役割や楽しみごと、気晴らしの場面作りを行っている。		現状、ホーム内の家事分担については、職員とごく一部の入居者によって行われている為、他の入居者に対しても、その人ができることを見極め、家事労働への参加を促して行く。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理については、家族の希望により、個々に合わせた力量で管理してもらう。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買物や季節に行事、地域の行事への参加で外出の機会を増やす様に努力している。散歩については、職員の勤務状況により、日常的に実践している。		入居者の気分転換を図るため、観光やドライブについては、全員参加を基本とする為、車椅子搭載可能な中型車の運転を全職員ができるようになる。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	入居者の意見や日常の会話から行きたい場所の把握をして、できる限り、叶えられるように努力している。又、一部の入居者には家族の方と一緒に外出したい方がおられる為、その希望を支援している。		入居者の気分転換を図るため、観光やドライブについては、全員参加を基本とする為、車椅子搭載可能な中型車の運転を全職員ができるようになる。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	要望があれば手紙や電話が利用できるように配慮している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族等、本人の馴染みの人たちが来所された時には、職員は全員、笑顔で明るく接するようしている。また、来訪者に対しては、本人の居室、あるいは共用スペースのリビング等、好みの場所で面談していただくようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員の勉強会で、職員一人ひとりが身体拘束の正しい正しく理解し、日々の生活の中に実施している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	季節に応じ玄関や入り口の開放を実施しているが、利用者の方の意見を重視するようにしている。		入居者の状況に応じ、玄関の施錠をしぬいように取り組んでいる。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は入居者一人ひとりの行動パターンを把握し、夜間は見守りをしている。夜間は、一時間おきの巡回で安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者の状態に応じた保管場所を取り決め、刃物などの危険なものは職員が預かり施錠のできる場所で管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	緊急時のマニュアルがあり、職員が内容を把握し、定期的な研修で事故防止に取り組んでいる。ヒヤリハットやアクシデントレポートの提出で事故の把握をし、事故に応じた対応方法を部署外での意見も取り入れられるような仕組みがある。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	定期的な勉強会を実施している。その都度、看護師に対応等の指導を受けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2回の防災訓練を実施している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	入居者の状況に応じ、家族に申し送りし、今後の対応等を話し合うようにしている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日の健康管理と入浴前の全身確認、変化や異常時は看護師へ相談し、対応や指示をうけている。指示を受けた理、対応したことは記録に残し共有できるようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	投薬シートを作成し、個々の薬の状況が把握できるようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	排便習慣の把握をして、状況に応じ、運動や水分補給で便秘の予防に努めている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	1日3回、食後にうがいを実施し、就寝前は義歯の洗浄を実施している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	併設施設の管理栄養士により、栄養バランスのとれた食事の提供を実施している。食事の量も個々に応じて配膳している。水分量の不足する方は嗜好に応じた対応で飲んでもらうようにしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成して対応できるようにしている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具や食器などは、使うたびに毎回、消毒して食中毒の予防に努めている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関には、植物や椅子を設置し、休息できるようにしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングにカーテンをし、天窓には日差しを遮るフィルムを貼って配慮している。季節に応じた飾り等の工夫をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用のリビング以外にも、廊下や玄関を利用して、椅子テーブルを配置して休んでいただけるようにしている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	設備、物品等は家庭にあるようなものを設置するようにし、小物などは入居者の状態によって飾ったり、家具の配置をしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各部屋に換気扇を設置し、協働の場所には空調設備や冷暖房の設備を整え、温度管理をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	要所の手すりの設置や、便座の高さの調整のための踏み台の利用や浴室、脱衣所の手すりの設置で安全に生活できるようにしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室のドアに入居者がそれぞれの分かる目印をつけたり、トイレや浴室にも目印をつけ、混乱や失敗がないように工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の周囲には季節に応じた草花を植え、屋上に物干しを作り活用している。		

# 介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームサンフェニックス あやめ

評価年月日 19 年 12 月 20 日

記入年月日 19 年 12 月 25 日

記入者 職 介護支援専門員 氏名 田原 佳代子



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> <b>理念の基づく運営</b> </div>				
1 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	法人の理念からホームの目標をたてユニットで目標を具体化し、日々の業務に生かせるように取り組んでいる。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	朝の申し送りを活用し、職員一人一人に再認識できるようにしている。		法人の朝礼で、ホームの理念から自分の取り組みたい事を定期的に発表している。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	運営推進会議、家族会、入所時等に理解を促している。		地域行事、イベント等の参加時に触れ合う事で理解をしていただけるように取り組んでいきたい。
2 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩や地域のサロン、乳児院の子供たちの遊び場の提供で、継続的なつきあいができるように努めている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	老人会の花見、運動会、もちつき、町内会の草取り疼の参加で、地域との交流ができるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の方にアンケートをとり、認知症の勉強会や介護についての悩み等の相談を受け付けている。		継続的にできる支援内容を年間の通して実施できるように計画していきたい。
<b>3 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価に取り組む事で、ケアへの再認識ができ改善へと取り組む姿勢が職員にでてくる。		定期的な内部研修で認知症への理解を促し、日々のケアに活かせるような体制作りに取り組んでいる。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議での意見は出席した職員からユニットに申し送りし、今後の取り組みを施設長、管理者、リーダーで話し合い実施できるように取り組んでいる。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	現在は取り組んでいない。		地域の認知症高齢者の状況や近隣地域での高齢者等の活動状況等を把握し、サービスの取り入れが可能な事には取り組んでいけるようにしていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	個々との必要性については家族からの相談や依頼で状況に応じた支援をしている。		内部、外部での研修等の参加で、職員一人一人が理解できるよう取り組んでいきます。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束委員会を設置し、身体拘束、高齢者虐待の研修を実施し、防止に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約は利用者、家族の話を十分に聞き取り、今後の相談や解決に取り組んでいる。 解約時は、状況の変化等があり、分からない事はいつでも相談してもらうように伝えている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	定期的な聞き取り、日々の言動等で不満や苦情を言われたら、すぐに対応するようにしている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月に一回の月間報告で、生活状況等は知らせている。職員の異動は面会や家族会等での報告をしている。		職員の異動も月間報告で知らせるように実施していく。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議の家族代表者は意見をだされ、他の利用者家族には、介護計画の説明時に意見を書いて頂くようにしている。意見の内容ですぐに改善、解決できることは取り組んでいる。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な研修の実施で意見交換ができるようにしている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状況に応じ、勤務時間や休憩の見直しをしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮            運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>定期的な個別面談で、職員の悩みや現状についての意見を聞き働きやすい環境を作るように努力している。</p>		
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み            運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>年間を通じての内部研修の実施や外部研修の参加を確保している。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上            運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>他のホームの管理者との意見交換は実施している</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み            運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員の意見を反映させるような取り組みに努めている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み            運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>年に3回の勤務状況の把握で、査定を行い給料や昇給に活かしている。</p>		
<p><b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係            相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>入所の相談、申し込み時には、訪問調査を実施し、利用者、家族から現在の状況や悩みや困っている事の相談にのっている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	訪問調査や来園時に家族の納得がいくまで話をする機会を設け、今後のことを一緒に考えるように努力している。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談の状況で、他のサービス利用の検討や施設等の紹介に努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならなかに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用される入居者の状況で、雰囲気に馴染めるか見学や入所前に遊びに来られるような支援体制は整えている。		利用者の状況により、ショートステイの利用を検討して行きたい。
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	会話の中から昔の話や得意なことを聞いて職員が教えてもらったり、できない事を手助けする支援をしている。		日々の役割を持っていただく事で、職員と入居者と協働で生活が送れるように関係作りを作っていきます。
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	施設にこられた家族に、その都度、利用者の普段の様子を知らせている。また、月間報告で全員の家族に一ヶ月間の様子を知らせ共感してもらう。		施設にあまり来られない方の家族とのコミュニケーションが難しいので今後、検討していきたい。
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家族からの利用者との入所前の状況の聞き取りや 家族会や施設行事の参加で一緒に過ごす機会を作るように努力している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>自由に面会していただけるようにしている。行事は馴染みの人達に参加していただき交流ができるようにしている。</p>		<p>行事等は馴染みの方達に連絡をこまめにするように心がける。</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>夕食作りや日ごろの家事の手伝いなどで入居者同士が関わりあっていけるような支援している。孤立しがちな方へは職員が中に入って他の入居者と関わりを持たせるように努めている。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>契約が終了した方でも 入院中の方は面会に行き状況を把握するようにしている。家族からの相談等には応じている。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p><b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> </div>				
<p>1 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>入居の契約時に、家族に希望や要望を伺い、趣旨に沿った対応を行うようにしている。</p>		<p>契約時に限らず、家族の面会時などの機会を利用し、意向等の把握をしていく。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>入居者や家族から聞き取りをして、センター方式に記入し、把握できるようにしている。</p>		<p>入居者とのコミュニケーションをしっかりと取り、情報が漏れないようにしていく。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>一人一人、日課表を作成しており、又、ケース記録やサンタ - 方式に、1日の過ごし方や心身状態を記入して、把握できるように努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	カンファレンスを聞き、職員間で意見やアイデアをだし合いながら介護計画を作成している。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の期間に応じて見直しを行っており、状態の変化には それに応じた介護計画の作成をしている。		変化が生じた際には、家族の意見も踏まえた計画作成をしていく。
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアの実践、結果、気づきなど、分かりやすく記入し、職員全員に情報がいきわたるようにしている。		利用者の発言などを書き込んでいき状況等をわかりやすくして行きたい。
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。			
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域のボランティア活動の方とサロン参加等で本人のできる事への支援の協力をして頂いている。		入居者の意向に沿っていない部分もあるので、入居者の意見も取り入れ、地域との関わりを深めていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	状況変化等の必要に応じ、居宅のケアマネージャーや他施設との相談員とサービス支援の相談の協力をして頂いている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じて対応していく体制は出来ている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	家族の意向に沿えるような受診体制は整えている。入居者の状態に応じた受診を、家族に説明をし、了解を得ている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	囑託医の定期的な回診で、状態に応じて相談をし、助言や指示を受けている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	職員配置の準看護師と非常勤の看護師に日常的な健康管理や医療支援をしてもらっている。		正看護師の配置で健康管理の充実を図るように準備している。
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入居者の情報提供や日頃のことを申し送りをしていきます。定期的な面会で状態を把握し、早期退院に向けての相談をしています。		



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有            重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化した場合の説明は実施しているが、終末期のあり方等は本人や家族の方針は聞き取れていない。</p>		<p>家族に終末期のあり方については、意見を聞く為の準備をしている段階です。</p>
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援            重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>重度化や終末期に向けた足り取り組みについては、今後、検討し準備を整えていく準備段階です。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止            本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>情報提供を十分行い、情報交換に努めています。分からない事はすぐに連絡できるようにしています。</p>		
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援            (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底            一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>一人ひとりの誇りを傷つけたり、プライバシーを損なわないよう、日々の言葉かけや対応に気を付けている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援            本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人の希望に沿えるように働きかけ、できるだけ、実現できるようにしている。自分で決めるのが難しい方は何をしたら良いか考えながら支援している。</p>		<p>ゆっくり考える時間をもてるようにする。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし            職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりのペースを大切にし、今、その人が何をしたいかが判断し、支援している。</p>		<p>今、していることだけではなく、他のことやできる事があると思うので見つけて支援して行きたい。</p>

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	入居者の好みを大切にし、服装や髪型へのアドバイスをしている。理美容については、併設施設内の理容室や本人の行き付けの美容院に家族と一緒にいかれるように支援している。一部の入居者は毎日、化粧をして頂いている。		その日に着る服を選ぶことができる入居者には選んでもらい着ていただく。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の入居者の状態、レベルにより、一部の入居者には、食事の準備や片付けをして貰っている。毎食とも職員と食事を一緒にとるので、好み等の把握をするように努めている。		週一回の食事作りではなく、毎日行って利用者とのコミュニケーションをもっと増やせるようにしていきたい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	施設から出るものを提供する事が多い。		飲み物やおやつなど時には、利用者の好みのものを聞いて提供していく。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の入居者の排泄状況に応じた援助や介助を実施している。できる限り、オムツの利用は避け、布のパンツで対応している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日や時間帯など職員の都合で決めている事が多い。		好きな時に入浴できるような業務の流れ、職員の動きしていきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの好きな時間に休んでいただくように支援している。。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居者の性格や生活状況の中から、それぞれの個性を引き出し感情が出やすいよう働きかけている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理については、家族の希望により、個々に合わせた力量で管理してもらう。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買物や季節に行事、地域の行事への参加で外出の機会を増やす様に努力している。		利用者の希望に沿えるような外出を支援して行きたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	入居者の意見や日常の会話から行きたい場所の把握をして、できる限り、叶えられるように努力している。		入居者の気分転換を図るため、観光やドライブについては、希望に沿えるように取り組んで行きたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	要望があれば手紙や電話が利用できるように配慮している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族等、本人の馴染みの人たちが来所された時には、職員は全員、笑顔で明るく接するようしている。また、来訪者に対しては、本人の居室、あるいは共用スペースのリビング等、好みの場所で面談していただくようになっている。居室での宿泊もできるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員の勉強会で、職員一人ひとりが身体拘束の正しい正しく理解し、日々の生活の中に実施している。		定期的な勉強会を行っている。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	季節に応じ玄関や入り口の開放を実施しているが、利用者の方の意見を重視するようにしている。		入居者の状況に応じ、玄関の施錠をしないようにしていきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は入居者一人ひとりの行動パターンを把握し、夜間は見守りをしている。夜間は、一時間おきの巡回で安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者の状態に応じた保管場所を取り決め、刃物などの危険なものは職員が預かり施錠のできる場所で管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	緊急時のマニュアルがあり、職員が内容を把握し、定期的な研修で事故防止に取り組んでいる。ヒヤリハットやアクシデントレポートの提出で事故の把握をし、事故に応じた対応方法を部署外での意見も取り入れられるような仕組みがある。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	定期的な勉強会を実施している。その都度、看護師に対応等の指導を受けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2回の防災訓練を実施している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	入居者の状況に応じ、家族に申し送りし、今後の対応等を話し合うようにしている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日の健康管理と入浴前の全身確認、変化や異常時は看護師へ相談し、対応や指示をうけている。指示を受けた理、対応したことは記録に残し共有できるようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	投薬シートを作成し、個々の薬の状況が把握できるようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	排便習慣の把握をして、状況に応じ、散歩やラジオ体操、水分補給で便秘の予防に努めている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	1日3回、食後にうがいを実施し、就寝前は義歯の洗浄を実施している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	併設施設の管理栄養士により、栄養バランスのとれた食事の提供を実施している。食事の量も個々に応じて配膳している。水分量の不足する方は嗜好に応じた対応で飲んでもらうようにしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成して対応できるようにしている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具や食器などは、使うたびに毎回、消毒して食中毒の予防に努めている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関には、植物や椅子を設置し、休息できるようにしている。		生き物(金魚、めだか)、熱帯魚や季節を感じるような花、植物等を考えていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングにカーテンをし、天窓には日差しを遮るフィルムを貼って配慮している。季節に応じた飾り等の工夫をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用のリビング以外にも、廊下や玄関を利用して、椅子テーブルを配置して休んでいただけるようにしている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者や家族と相談し、昔からの馴染みの家具や装飾品を飾り、本人が過ごしやすい工夫をしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各部屋に換気扇を設置し、協働の場所には空調設備や冷暖房の設備を整え、温度管理をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	要所の手すりの設置や、便座の高さの調整のための踏み台の利用や浴室、脱衣所の手すりの設置で安全に生活できるようにしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室のドアに入居者がそれぞれの分かる目印をつけたり、トイレや浴室にも目印をつけ、混乱や失敗がないように工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の周囲には季節に応じた草花を植え、屋上に物干しを作り活用している。		

# 介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームサンフェニックス もくれん

評価年月日 19 年 12 月 20 日

記入年月日 19 年 12 月 25 日

記入者 職 計画作成者 氏名 浅尾美智子



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> <b>理念の基づく運営</b> </div>				
1 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	法人の理念からホームの目標をたてユニットで目標を具体化し、日々の業務に生かせるように取り組んでいる。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	朝の申し送りを活用し、職員一人一人に再認識できるようにしている。		法人の朝礼で、ホームの理念から自分の取り組みたい事を定期的に発表している。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	運営推進会議、家族会、入所時等に理解を促している。		地域行事、イベント等の参加時に触れ合う事で理解をしていただけるように取り組んでいきたい。
2 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩や地域のサロン、乳児院の子供たちの遊び場の提供で、継続的なつきあいができるように努めている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	老人会の花見、運動会、もちつき、町内会の草取り等の参加で、地域との交流ができるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の方にアンケートをとり、認知症の勉強会や介護についての悩み等の相談を受け付けている。		継続的にできる支援内容を年間の通して実施できるように計画していきたい。
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価に取り組む事で、ケアへの再認識ができ改善へと取り組む姿勢が職員にでてくる。		定期的な内部研修で認知症への理解を促し、日々のケアに活かせるような体制作りに取り組んでいる。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議での意見は出席した職員からユニットに申し送りをし、今後の取り組みを施設長、管理者、リーダーで話し合い実施できるように取り組んでいる。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	現在は取り組んでいない。		地域の認知症高齢者の状況や近隣地域での高齢者等の活動状況等を把握し、サービスの取り入れが可能な事には取り組んでいけるようにしていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	個々との必要性については家族からの相談や依頼で状況に応じた支援をしている。		内部、外部での研修等の参加で、職員一人一人が理解できるよう取り組んでいきます。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束委員会を設置し、身体拘束、高齢者虐待の研修を実施し、防止に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約は利用者、家族の話を十分に聞き取り、今後の相談や解決に取り組んでいる。 解約時は、状況の変化等があり、分からない事はいつでも相談してもらうように伝えている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	定期的な聞き取り、日々の言動等で不満や苦情を言われたら、すぐに対応するようにしている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月に一回の月間報告で、生活状況等は知らせている。職員の異動は面会や家族会等での報告をしている。		職員の異動も月間報告で知らせるように実施していく。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議の家族代表者は意見をだされ、他の利用者家族には、介護計画の説明時に意見を書いて頂くようにしている。意見の内容ですぐに改善、解決できることは取り組んでいる。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な研修の実施で意見交換ができるようにしている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状況に応じ、勤務時間や休憩の見直しをしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮            運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>定期的な個別面談で、職員の悩みや現状についての意見を聞き働きやすい環境を作るように努力している。</p>		
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み            運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>年間を通じての内部研修の実施や外部研修の参加を確保している。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上            運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>他のホームの管理者との意見交換は実施している</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み            運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員の意見を反映させるような取り組みに努めている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み            運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>年に3回の勤務状況の把握で、査定を行い給料や昇給に活かしている。</p>		
<p><b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係            相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>入所の相談、申し込み時には、訪問調査を実施し、利用者、家族から現在の状況や悩みや困っている事の相談にのっている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	訪問調査や来園時に家族の納得がいくまで話をする機会を設け、今後のことを一緒に考えるように努力している。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談の状況で、他のサービス利用の検討や施設等の紹介に努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならなかに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用される入居者の状況で、雰囲気に馴染めるか見学や入所前に遊びに来られるような支援体制は整えている。		利用者の状況により、ショートステイの利用を検討して行きたい。
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	会話の中から昔の話や得意なことを聞いて職員が教えてもらったり、できない事を手助けする支援をしている。		日々の役割を持っていただく事で、職員と入居者と協働で生活が送れるように関係作りを作っていきます。
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	施設にこられた家族に、その都度、利用者の普段の様子を知らせている。また、月間報告で全員の家族に一ヶ月間の様子を知らせ共感してもらう。		施設にあまり来られない方の家族とのコミュニケーションが難しいので今後、検討していきたい。
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家族からの利用者との入所前の状況の聞き取りや 家族会や施設行事の参加で一緒に過ごす機会を作るように努力している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>自由に面会していただけるようにしている。行事は馴染みの人達に参加していただき交流ができるようにしている。</p>		<p>行事等は馴染みの方達に連絡をこまめにするように心がける。</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>夕食作りや日ごろの家事の手伝いなどで入居者同士が関わりあっていけるような支援している。孤立しがちな方へは職員が中に入って他の入居者と関わりを持たせるように努めている。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>契約が終了した方でも 入院中の方は面会に行き状況を把握するようにしている。家族からの相談等には応じている。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p><b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> </div>				
<p>1 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>入居の契約時に、家族に希望や要望を伺い、趣旨に沿った対応を行うようにしている。</p>		<p>契約時に限らず、家族の面会時などの機会を利用し、意向等の把握をしていく。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>入居者や家族から聞き取りをして、センター方式に記入し、把握できるようにしている。</p>		<p>入居者とのコミュニケーションをしっかりと取り、情報が漏れないようにしていく。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>一人一人、日課表を作成しており、又、ケース記録やサンタ - 方式に、1日の過ごし方や心身状態を記入して、把握できるように努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	カンファレンスを聞き、職員間で意見やアイデアをだし合いながら介護計画を作成している。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の期間に応じて見直しを行っており、状態の変化には それに応じた介護計画の作成をしている。		変化が生じた際には、家族の意見も踏まえた計画作成をしていく。
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアの実践、結果、気づきなど、分かりやすく記入し、職員全員に情報がいきわたるようにしている。		利用者の発言などを書き込んでいき状況等をわかりやすくして行きたい。
<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。			
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域のボランティア活動の方とサロン参加等で本人のできる事への支援の協力をして頂いている。		入居者の意向に沿っていない部分もあるので、入居者の意見も取り入れ、地域との関わりを深めていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	状況変化等の必要に応じ、居宅のケアマネージャーや他施設との相談員とサービス支援の相談の協力をして頂いている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じて対応していく体制は出来ている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	家族の意向に沿えるような受診体制は整えている。入居者の状態に応じた受診を、家族に説明をし、了解を得ている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	囑託医の定期的な回診で、状態に応じて相談をし、助言や指示を受けている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	職員配置の準看護師と非常勤の看護師に日常的な健康管理や医療支援をしてもらっている。		正看護師の配置で健康管理の充実を図るように準備している。
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入居者の情報提供や日頃のことを申し送りをしていきます。定期的な面会で状態を把握し、早期退院に向けての相談をしています。		



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有            重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化した場合の説明は実施しているが、終末期のあり方等は本人や家族の方針は聞き取れていない。</p>		<p>家族に終末期のあり方については、意見を聞く為の準備をしている段階です。</p>
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援            重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>重度化や終末期に向けた足り取り組みについては、今後、検討し準備を整えていく準備段階です。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止            本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>情報提供を十分行い、情報交換に努めています。分からない事はすぐに連絡できるようにしています。</p>		
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援            (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底            一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>一人ひとりの誇りを傷つけたり、プライバシーを損なわないよう、日々の言葉かけや対応に気を付けている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援            本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人の希望に沿えるように働きかけ、できるだけ、実現できるようにしている。自分で決めるのが難しい方は何をしたら良いか考えながら支援している。</p>		<p>ゆっくり考える時間をもてるようにする。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし            職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりのペースを大切にし、今、その人が何をしたいかが判断し、支援している。</p>		<p>今、していることだけではなく、他のことやできる事があると思うので見つけて支援して行きたい。</p>

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	入居者の好みを大切にし、服装や髪型へのアドバイスをしている。理美容については、併設施設内の理容室や本人の行き付けの美容院に家族と一緒にいかれるように支援している。一部の入居者は毎日、化粧をして頂いている。		その日に着る服を選ぶことができる入居者には選んでもらい着ていただく。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の入居者の状態、レベルにより、一部の入居者には、食事の準備や片付けをして貰っている。毎食とも職員と食事を一緒にとるので、好み等の把握をするように努めている。		週一回の食事作りではなく、毎日行って利用者とのコミュニケーションをもっと増やせるようにしていきたい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	施設から出るものを提供する事が多い。		飲み物やおやつなど時には、利用者の好みのものを聞いて提供していく。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の入居者の排泄状況に応じた援助や介助を実施している。できる限り、オムツの利用は避け、布のパンツで対応している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日や時間帯など職員の都合で決めている事が多い。		好きな時に入浴できるような業務の流れ、職員の動きしていきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの好きな時間に休んでいただくように支援している。。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居者の性格や生活状況の中から、それぞれの個性を引き出し感情が出やすいよう働きかけている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理については、家族の希望により、個々に合わせた力量で管理してもらう。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買物や季節に行事、地域の行事への参加で外出の機会を増やす様に努力している。		利用者の希望に沿えるような外出を支援して行きたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	入居者の意見や日常の会話から行きたい場所の把握をして、できる限り、叶えられるように努力している。		入居者の気分転換を図るため、観光やドライブについては、希望に沿えるように取り組んで行きたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	要望があれば手紙や電話が利用できるように配慮している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族等、本人の馴染みの人たちが来所された時には、職員は全員、笑顔で明るく接するようしている。また、来訪者に対しては、本人の居室、あるいは共用スペースのリビング等、好みの場所で面談していただくようになっている。居室での宿泊もできるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践            運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束委員の勉強会で、職員一人ひとりが身体拘束の正しい正しく理解し、日々の生活の中に実施している。</p>		<p>定期的な勉強会を行っている。</p>
66	<p>鍵をかけないケアの実践            運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>季節に応じ玄関や入り口の開放を実施しているが、利用者の方の意見を重視するようにしている。</p>		<p>入居者の状況に応じ、玄関の施錠をしないようにしていきたい。</p>
67	<p>利用者の安全確認            職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>職員は入居者一人ひとりの行動パターンを把握し、夜間は見守りをしている。夜間は、一時間おきの巡回で安全に配慮している。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理            注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>入居者の状態に応じた保管場所を取り決め、刃物などの危険なものは職員が預かり施錠のできる場所で管理している。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み            転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>緊急時のマニュアルがあり、職員が内容を把握し、定期的な研修で事故防止に取り組んでいる。ヒヤリハットやアクシデントレポートの提出で事故の把握をし、事故に応じた対応方法を部署外での意見も取り入れられるような仕組みがある。</p>		
70	<p>急変や事故発生の備え            利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。</p>	<p>定期的な勉強会を実施している。その都度、看護師に対応等の指導を受けている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2回の防災訓練を実施している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居者の状況に応じ、家族に申し送りし、今後の対応等を話し合うようにしている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日の健康管理と入浴前の全身確認、変化や異常時は看護師へ相談し、対応や指示をうけている。指示を受けた理、対応したことは記録に残し共有できるようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	投薬シートを作成し、個々の薬の状況が把握できるようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	排便習慣の把握をして、状況に応じ、散歩やラジオ体操、水分補給で便秘の予防に努めている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	1日3回、食後にうがいを実施し、就寝前は義歯の洗浄を実施している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	併設施設の管理栄養士により、栄養バランスのとれた食事の提供を実施している。食事の量も個々に応じて配膳している。水分量の不足する方は嗜好に応じた対応で飲んでもらうようにしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成して対応できるようにしている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具や食器などは、使うたびに毎回、消毒して食中毒の予防に努めている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関には、植物や椅子を設置し、休息できるようにしている。		生き物(金魚、めだか)、熱帯魚や季節を感じるような花、植物等を考えていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングにカーテンをし、天窓には日差しを遮るフィルムを貼って配慮している。季節に応じた飾り等の工夫をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用のリビング以外にも、廊下や玄関を利用して、椅子テーブルを配置して休んでいただけるようにしている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者や家族と相談し、昔からの馴染みの家具や装飾品を飾り、本人が過ごしやすい工夫をしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各部屋に換気扇を設置し、協働の場所には空調設備や冷暖房の設備を整え、温度管理をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	要所の手すりの設置や、便座の高さの調整のための踏み台の利用や浴室、脱衣所の手すりの設置で安全に生活できるようにしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室のドアに入居者がそれぞれの分かる目印をつけたり、トイレや浴室にも目印をつけ、混乱や失敗がないように工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の周囲には季節に応じた草花を植え、屋上に物干しを作り活用している。		